

第84の山登頂記

5月13日、山口市東部に位置する白石山(標高541M)に登ってきました。この山には、(前回は2010年7月など)既に2回、登山実績があります。

まずは、参加者予定者9人(女性5、男性4)中8人が、当日予定の8時半に公民館集合。残る1人は準備はしていたものの、(歳と共に、誰でもよくある)9時集合と勘違いし、自宅で時間調整中でした。登山口への道筋なので途中で捨てることに。2台の車に分乗し、途中、名残の鯉のぼりの残る道の駅(仁保の郷)でトイレ休憩がてら、朝市などをちょっと覗き、再度車を走らせ10時過ぎに登山口駐車場に到着。

いつものバナナに加え、今回は栄養ドリンクも頂き、思い通りの装備と登山準備体操のあと、使用前の全員記念撮影のあと、10時半ごろ、いざ登山開始。高度計を見ると、表示270Mで、既に標高の半分が済んだ計算。登山口に、手製のと言うか、自然のと言うか、無料レンタル杖が置いてあるので、それを借りたりして。

暖かさを増して、家の周りの畑の草々は草取りや草刈りが追いつかない程その成長が激しくなっていますが、登山道の脇の葉っぱは、緑も随分濃くなっています。V字の溝状になった道を登って行きます。ちょっと行くと、平坦路に変わり、ほっとする。この山は、何度か登り→平坦の繰り返しがあり、平坦時に息をつける。

また、この山は大きい岩が随所に現れるが、最初の大岩が現れたのが、登山開始約20分後。その名も「大岩」と命名されており、皆でこの岩の上に立ち、山々の重なる風景を楽しむ。晴れてはいるが、幾分ガスっている。周りでは盛んにウグイスがさえずる。

そこから2~3分も行くと、今度は、「馬の鞍岩」と「龍駄の岩」という上下に重なった岩の脇を通る。道の脇にはシダでしょうか、通常のシダの葉の先端の茎がY字型の草があっちにもこっちにも。登山開始後約1時間で、「眺望岩」と言う大きい岩を背にして、ここでも眺望を楽しむ。地元の小学生が書いたとか言う、「頑張れ、あともう少しで頂上だ！」の看板が、朽ちて下の方は無くなっており、落ちて、もともと打ちつけてあった杭に立てかけてある。

いよいよ大きい岩が、あっちにもこっちにもゴロゴロと。その大岩の一つ、少し高い位置の洞に、この山の名を執り「白石観音」なる木彫りの観音様が安置されており、無事をお祈りする。少し先の大岩では、その下で毎年8月始め、麓の有志が夜を徹して接待する、いわゆる「接待岩」があり、中ほどには焚火の跡が残っていた。ここで時間は、12時少し前。

一段上の岩(物見岩)は、広めの舞台状になっており、大きく眺望が開ける。舞台の縁は、ステンレスの鎖で囲んである。すぐ脇に白い花の咲く木があり、葉っぱの緑との対照が良い(※)。遠く、アンテナの林立する大平山が確認できた(※)。

ここから少し下ってまた登り返すと、5分ほどで頂上3角点に到着。ここは周囲の木々が遮って眺望は効かない。

引き返して、先ほどの物見岩手前の木陰で昼食会(※)。途中で少々汗も掻いたので、「乾杯」のビールが凄く美味しい。K奥さんの自慢の漬けものも頂く。私は、以下の準備で、今朝ちょっと忙しかったのです。まずは、朝、家の裏で採ったタケノコの先っぽの芯をスライスした刺身(+醤油&わさび)をふる舞う。初めて食する人が多い。ややあって、今度は、デザートに、これも今朝レンジで作った「干し蜜柑の皮のみじん切りとキンカンジャムの入った外郎」をご馳走する。これも好評で、ご婦人方からレシピ欲しいとの声あり。

13時過ぎに下り開始。途中まで元来た道を下る。そこで、(意味不明だが)「引き回し方面」と書かれた方へ道を変えて下る。登りより、急な感じで、道を塞ぐ倒木に何度も行きあたって、潜ったり越えたりして下る。こちらのコースでも、時々大岩が現れる。「蝙蝠岩」や「燕岩」や「狼岩」などの命名があった。

14時頃、山道は終了し、平地に出る。駐車場への道を辿るが、途中では田植えもしていた。ワラビもあった。休憩時、各人一口コーヒーも飲んだ。14時半過ぎ、駐車場に到着。

帰路、往路寄った道の駅で休憩し、16時40分頃、公民館到着。

遠く、近く、まばゆいばかりの緑を愛でながら、標高差の少ない登山道を少し汗を掻いて登り、美味しい飲み物や食べ物を楽しんだ春の一日でした。歩行数8799歩。

山口/古賀

